

## ACT (Artists Contemporary TOKAS) Vol. 7

## 複数形の身体



## — 身体の複数性から現代社会を考察する

世界の総人口約 80 億人のうち、一生の間に接点をもつ他者は、その 0.000375% の 3 万人であると言われています。この地球上の見知らぬ人々を想像すると、この身体では認知できないほど遥か大きなスケールで存在していることを実感します。本展では、身体の複数性をテーマに、身体を起点とした表現を追求する 3 名のアーティスト、**敷地理**、**庄司朝美**、**マリオン・パケット**を紹介します。他者との関係性をとおして変容していく身体や、ヴァーチャル空間における身体の複数化、社会というひとつの集合的身体など、さまざまな観点から現代における身体のあり様やその可能性を考察します。

\* 「ACT (Artists Contemporary TOKAS)」とは、トーキョーアーツアンドスペース (TOKAS) のプログラム参加経験者を含め、今注目すべき活動を行う作家を紹介する企画展です。

## 展覧会概要

展覧会名：ACT (Artists Contemporary TOKAS) Vol. 7「複数形の身体」

出展作家：敷地理、庄司朝美、マリオン・パケット

会期：2025年2月22日(土)～3月23日(日)

会場：トーキョーアーツアンドスペース本郷(東京都文京区本郷2-4-16)

開館時間：11:00 - 19:00(最終入場は30分前まで)

休館日：月曜日(2月24日は開館)、2月25日(火)

入場料：無料

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 トーキョーアーツアンドスペース

ウェブサイト：<https://www.tokyoartsandspace.jp/>

< お問い合わせ >

〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1 東京都現代美術館内

トーキョーアーツアンドスペース(公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館)

広報担当：舟橋、市川、武智

TEL：03-5245-1142 FAX：03-5245-1154 E-mail：press@tokyoartsandspace.jp

## 展覧会について

私たちは、世界を知覚する器官として、身体という構造をもっています。ひとりひとりが、コミュニケーションを生成する主体として、周囲に存在する他者を認識し、外部へと関わりを築いていきます。

しかし、なぜ世界には、ただひとつではなく、いくつもの「身体」が存在するのでしょうか。身体の複数性は、ひとつに、生殖機能を持ち合わせていることに起因します。人間は、複数の身体からしか生まれず、現生人類が誕生したとされる約20万年前から、数えきれないほどの身体と身体の営みが堆積した歴史の上に生きています。

一方、医療技術の進歩により、人間は臓器や血液といったある個人の肉体の一部を取り出し、必要とする別の個人の体に移すことで、複数の人間の身体の一部が内在するひとつの身体を生存させることを可能にしました。また、日常生活におけるデジタル世界の浸透は、個人の身体をヴァーチャルによって複数化させていきました。アバターや、アプリで加工されイメージ化された身体は、現実とは異なる多次的な様相によって、複数のアイデンティティを形成していきます。

本展では、複数形に存在する身体を探っていくことをテーマとし、身体間の相互関係を考察する3名のアーティスト、敷地理、庄司朝美、マリオン・パケットを紹介します。敷地は、言葉になる前のコミュニケーションとしてのダンスにより、他者との間に生まれる感覚を、別の身体に移植させて内在化させることを探究します。庄司は、自身の身体をとおして探る世界を絵画空間に落とし込み、鑑賞者と自身の身体を往来するような絵画体験を生み出すを試みます。パケットは、公共空間と私的空間の境界を曖昧にし、自己と他者が関わり合いながら共存する集合的身体を浮かび上がらせます。彼らの作品は、互いに影響し合う身体の繊細な関係性や、その多角的なあり方を映し出し、人間が根源的にもつ身体的な想像力やその感受性を再認識させ、新たな身体の可能性を予感させてくれるでしょう。

## 関連イベント

### 【オープニング・イベント】

#### アーティスト・トーク

日時：2025年2月22日（土）15:00 – 16:30

出演：敷地理、庄司朝美、マリオン・パケット

※日英逐次通訳あり／予約不要

### 【クロージング・イベント】

#### マリオン・パケットによるパフォーマンス

日時：2025年3月23日（日）15:00

※予約不要

### 庄司朝美によるパフォーマンス

日時：2025年2月22日（土）14:00

※予約不要

### 敷地理によるパフォーマンス

日時：2025年2月23日（日）15:00

2025年2月24日（月・祝）15:00

※要予約（1月中旬頃、予約受付開始予定）

※日程およびイベント内容は変更となる場合があります。

参加アーティスト／広報用画像 ※この他にも広報用画像を用意しております。詳しくは広報担当までお問い合わせください。

## 敷地理

SHIKICHI Osamu

OPEN SITE 6 (2021) 参加

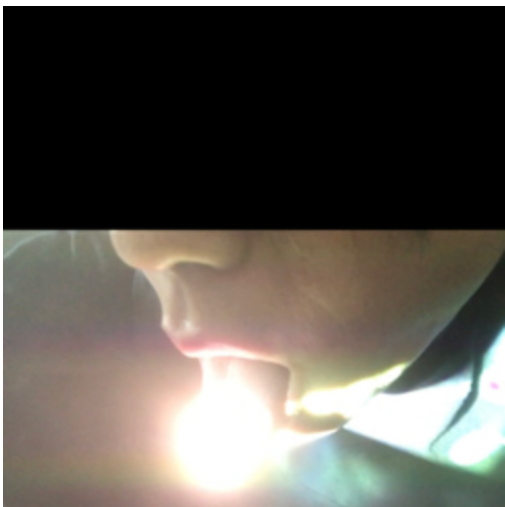
敷地は、外側から客観的に見ることが不可能な自身の身体やその現実感を、物質的に最も近い他者をとおして捉えることをテーマに、振付やダンスを軸に、パフォーマンス、彫刻的オブジェ、映像表現などを取り入れた作品を制作しています。その過程で、人間の身体に対するあらゆる識別方法を曖昧にし、身体の認識を作り変えることを試みています。2020年より継続的に発表している作品《blooming dots》では、今や生活から手放せなくなった身体の一部とも言えるスマートフォンを第三の眼として、自身の身体があたかも他者の身体と化すような、「誰のものでもあり、誰のものでもない新しい身体」を立ち上げ、そこに生まれる新しい身体言語を探究しています。さらに、その関係性の中で引き起こされる感覚自体を扱い、とりわけ「ASMR」(autonomous sensory meridian response) と呼ばれる人間が聴覚や視覚への刺激によって感じる心地よさや快感といった高感覚なものを視覚化することに注目し、奇妙で性的な緊張感を持った「WET」(weird erotic tension) な動きを追求しています。

本展では、能の演目「井筒」に着目し、劇中で亡き夫の直衣を身に付けた女性が、井戸の水面に自らの姿を映し、そこに夫の面影を重ねて恋い慕いながら舞う舞を題材として取り上げます。その舞に、特定の相手に向けて一対一で踊る官能的なラップ・ダンスを重ね合わせ、自身の振付に関するテキストを下地に、パフォーマンス的なインスタレーションに挑戦します。また会期中には、敷地によるパフォーマンスも予定しています。

### <プロフィール>

1994年埼玉県生まれ。ブリュッセルと東京都を拠点に活動。2024年 P.A.R.T.S. (Performing Arts Training Cycle) 修了(ダンス)。2020年東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻修了。

主な公演に「ユアファントムアイ、アワクリスタライズペイン / ur phantom eyes, our crystalized pains」(Kaaistudios、ブリュッセル、2024)、「unisex #01」(Camping Asia、台北、2023)「Hyper Ambient Club "My lips to your ear, my hand on yours, the words moving underneath the shadows we made"」(CCO クリエイティブセンター大阪、2023)。主な展覧会に「地底人とミラーレス・ミラー」(gallery α M、東京、2022)、「ama phantom」(BankART KAIKO、横浜、2021)。主な受賞歴に「横浜ダンスコレクション 2020」若手振付家のための在日フランス大使館賞、2023年公益財団法人ポーラ美術振興財団在外研修員(ベルギー)。



1. 《screen tongue from “ユアファントムアイ、アワクリスタライズペイン / ur phantom eyes, our crystalized pains”》2024



2. 《white eyes with sharing body from “ユアファントムアイ、アワクリスタライズペイン / ur phantom eyes, our crystalized pains”》2024

パフォーマンス

Photo: Anya FEDORONCHUK

## 庄司朝美

## SHOJI Asami

TOKAS-Emerging 2016、トーキョーワンダーウォール都庁 2015 参加

「絵を描くことのはじまりにあるのは身体である」という庄司は、「絵画を見る」という経験の中で生まれる身体イメージや感覚を探究しています。半透明の亚克力板やキャンヴァスを主な支持体とし、あらかじめ完成形を想定せずに、直感的に絵を描いていく制作を特徴としています。まず、下絵なしに一本の線を描き、そこに絵具を置き、今度はその絵具をむしり取るように拭き取る作業を行います。そこから、感覚的に降りてくるイメージに身を任せ、ふたたび筆を握り、絵具を拭き取る、といった身体的な行為の循環の中で、絵画を紡いでいきます。その絵画空間には、自身の腕のストロークから偶然生まれた鳥や動物のイメージ、裸の身体、骨をあらわにした透けた身体など、庄司の身体と地続きにある複数の存在が姿を現します。絵の中には原初的な衝動や情動が渦巻く一方で、自らの身体を差し出すように大きく広げた両腕や、頬を寄せ合う顔たち、相手の顔に添えられた手など、描かれた身振りの内に、そこはかたない慈しみが混在し、観る者の感覚を震わせます。

本展では、一連のドローイング作品をメインに、油絵の作品を合わせた数十点の新作を展示します。また展覧会初日には、展示空間内の窓に絵を描くパフォーマンスを行います。庄司自身が、絵の中で描かれる身体の内部に侵入していくかのように、絵を描く自身の身体と、絵画の中の身体の間を行き来することを試みます。

## &lt;プロフィール&gt;

1988年福島県生まれ。東京都を拠点に活動。2012年多摩美術大学大学院美術研究科絵画専攻版画研究領域修了。

主な個展に「よそ者の話」(LINSEEDよりIndependent Art Fair、ニューヨーク、2024)、「10月、から騒ぎ」(Semiose、パリ、2024)、「足のない歩行」(gallery21yo-j、東京、2023)、主なグループ展に「MOT アニュアル 2024 こうふくのしま」(東京都現代美術館、2024)、「顕神の夢」(川崎市岡本太郎美術館、神奈川、ほか巡回、2023-24)。主な受賞歴に「令和2年度五島記念文化賞美術新人賞」(2020)、「FACE2019 グランプリ」、「トーキョーワンダーウォール賞」(2015)。



3. 《23.5.28》2023  
紙に亚克力絵具、鉛筆、竹  
Photo: 加藤 健



4. 《“Gestures of Resistance” Window Painting》2023  
窓に油彩  
Photo: Pedro LIMA



## マリオン・パケット Marion PAQUETTE

2023年度二国間交流事業プログラム〔ケベック〕参加

パケットは、表現において、身体や空間、そしてオブジェとの繊細な関係を探るインターフェイスや状況を創出する実践を行っています。テキスタイルや紙など、可塑性のある素材を用いた柔らかな彫刻作品を特徴とし、自分という単一の身体と、周りに存在する他者の身体、相互の関係をとおして変化する身体のあり方や振る舞いを浮かび上がらせます。また、公と私の間で形成される社会的な身体に関心をもつパケットは、公共の場において、遊び心溢れるアイデアで、鑑賞者の身体的介入を促します。2023年にTOKASのレジデンス・プログラムに参加した際には、日本の公共空間で見られる「居眠り」という現象をリサーチし、どこでも簡単に個室の休憩空間を実現させる持ち運び可能な作品《inemuri - 居眠り - dormir présent-e》を考案しました。公共空間に仮設的に出現させたプライベート空間によって、社会的な身体が突如、私的な身体へと変化する状況を作り出しました。

本展では、生物の生態系を支える菌類のネットワーク「菌糸体」から着想された、大型のインスタレーション作品を展開します。展示室全体に広がる本作は、パケットがモントリオールの友人たちから譲り受けた、舟の帆の布をリメイクした約45点のオブジェで構成されます。鑑賞者は、作品の中に自由に入ることができ、その身体経験をとおして、遠くカナダから巡り巡ってきた布と、それぞれの布に織り込まれた個人の物語が、ゆるやかに結ばれていきます。夜空の星々に、人間が星座という布置を与えたことで、それぞれとのつながりを見出し、そこに意味が生まれたように、パケットは、人と人とのあわいを装置によってつなぎ、社会というひとつの集体的身体への再考を試みます。また展覧会最終日には、パケットによるパフォーマンスも予定しています。

### <プロフィール>

1992年モントリオール生まれ。モントリオールを拠点に活動。2015年ケベック大学モントリオール校ヴィジュアル&メディアアート学部卒業。

主な個展に「inemuri 居眠り dormir présent-e」(Occurrence espace d'art et d'essai contemporains、モントリオール、2024)、主なグループ展に「Fil・Flux・Figments」(Livart、モントリオール、2024)、「Mur Mitoyen」(Espace Transmission、モントリオール、2023)、「entre bleu」(Vrille art actuel、ラ・ポカティエール、カナダ、2023)、「bleu de lieu」(Fondation PHI pour l'art contemporain、モントリオール、2022)。



5. 《entre l'instant et la durée》2024  
ポリエステル、レーザーカット、金属、ポリ塩化ビニル



6. 《Table sonore》2024  
スチール、サウンド、砂、ペンキ  
共同制作：ローランス・ポワール

ACT (Artists Contemporary TOKAS) Vol. 7 「複数形の身体」  
広報用画像申込書

Email : [press@tokyoartsandspace.jp](mailto:press@tokyoartsandspace.jp)

トーキョーアーツアンドスペース広報担当宛

(ご希望の広報用画像番号にチェックを入れてください。下記の URL からダウンロードも可能です。)

1  2  3  4  5  6  ウェブバナー (12月下旬頃納品)

<https://www.tokyoartsandspace.jp/press/form/17>

掲載媒体名 (特集・コーナー名)

種別  TV  ラジオ  新聞  フリーペーパー  ネット媒体  その他 ( )

掲載/放送予定日 月 日 発売/放送 ( 月号)

貴社名

ご担当者名

Tel

E-mail (画像はメールでお送りしますので必ずご記入ください)

画像到着希望日 月 日 時頃までに送付

- ・ご記入いただいた個人情報は、お問い合わせ及びご要望に対応させていただき目的のみ利用させていただきます。
- ・お急ぎの場合はメールもしくは、お電話でお問い合わせください。

【注意事項】

- ・画像データは申請時の目的以外での使用はできません。ご掲載や放送以外の目的での写真のご利用はご遠慮ください。また、申請時とは別の媒体での使用、再販等の場合は改めて申請してください。
- ・画像データは、メールにてお送りします。お手元に届くまで1～2日(土日祝休み)ほど頂戴いたしますのでご了承ください。
- ・作品画像は全図でご使用いただき、トリミング、文字載せはお控えください。必ず所定のキャプション等を併記してください。
- ・提供した画像データは、使用後速やかに破棄してください。画像が無断で第三者に利用されることのないよう、Webサイトへのご掲載は、画像にコピーガードや転載不可の明記をしてください。
- ・情報確認のため、事前に記事原稿をお送りください。
- ・取材の内容が収録された番組等はビデオ・DVDを一部、印刷物(掲載誌・雑誌)については現物を1部もしくはコピーの場合は3部ご送付ください。Webサイトの場合は、掲載時にURLをお知らせください。

< お問い合わせ > ※校正ゲラ及び掲載誌紙・DVD等は下記宛にお送りください。

〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1 東京都現代美術館内

トーキョーアーツアンドスペース (公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館)

広報担当: 舟橋、市川、武智

TEL: 03-5245-1142 FAX: 03-5245-1154 E-mail: [press@tokyoartsandspace.jp](mailto:press@tokyoartsandspace.jp)